

■ 京都大学の基本理念

京都大学は、創立以来築いてきた自由の学風を継承し、発展させつつ、多元的な課題の解決に挑戦し、地球社会の調和ある共存に貢献するため、自由と調和を基礎に、ここに基本理念を定める。

研究

1. 京都大学は、研究の自由と自主を基礎に、高い倫理性を備えた研究活動により、世界的に卓越した知の創造を行う。
2. 京都大学は、総合大学として、基礎研究と応用研究、文科系と理科系の研究の多様な発展と統合をはかる。

教育

3. 京都大学は、多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹として自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる。
4. 京都大学は、教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する。

社会との関係

5. 京都大学は、開かれた大学として、日本および地域の社会との連携を強めるとともに、自由と調和に基づく知を社会に伝える。
6. 京都大学は、世界に開かれた大学として、国際交流を深め、地球社会の調和ある共存に貢献する。

運営

7. 京都大学は、学問の自由な発展に資するため、教育研究組織の自治を尊重するとともに、全学的な調和をめざす。
8. 京都大学は、環境に配慮し、人権を尊重した運営を行うとともに、社会的な説明責任に応える。



百周年時計台記念館前の「クスノキ」

現在、時計台の前にあるクスノキは2代目です。1934（昭和9）年9月の室戸台風で初代の木が折れ、その後に植えられたものです。植えられた正確な日付はわかりませんが、1936（昭和11）年1月に発行された『京都帝国大学新聞』に時計台の写真が掲載されていて、その写真に小さな「クスノキ」が写っていますので、1935（昭和10）年に植えられたと推測しています。植えられたときの樹齢は約5～10年くらいです。

では、その初代のクスノキはいつ植えられたのか、大学に残っている写真等から、時計台が建てられた大正14年には、既に今のところに植えられていて、1912（大正元）年から1925（大正14）年の間のどこかで、2代目と同じように植えられたと推測しています。